



平和を願って静かに立つ「谷中の碑」

今年も8月15日に終戦の日を迎え、太平洋戦争の終結から67年の時が流れました。この大戦では市内でも、昭和20年3月に賀崎や阿漕浦の海岸に空襲を受けたのははじめ、終戦までの半年ほどの間に、爆弾の投下や機銃掃射が繰り返されました。市内各所には空襲の傷跡や犠牲者を悼む慰霊碑がありますが、その中から美杉地域にある「谷中の碑」を紹介します。

県道久居美杉線を奥津方面に向かって走り、鎌倉トンネルを抜けると、NTT美杉電話交換所の付近で桜峠に通じる県道青山美杉線と分かれます。この青山美

杉線を2kmほど進んだ不動橋のたもとに、「谷中の碑」が建てられています。

「谷中」とは、この石碑からさらに伊賀市方面に進んだところにあつた集落で、戦争中は20軒ほどの家々があつたといわれています。豊かな自然に包まれたこの静かな集落に、昭和20年7月24日、アメリカ力の爆撃機B29から1発の爆弾が落とされました。この日、津市街を空襲するため百機を超えるB29が飛来しており、谷中に爆弾を落としたのはこの空襲から帰還中の1機だったといわれています。谷中への爆弾投下は当初から

計画されたものではなく、何らかの原因で投下できなかった爆弾を、帰還の途中に処分したものでないかと考えられています。

この1発の爆弾で、葉草を採ったり川遊びをしたりしていた小学生と、その保護者の7人が犠牲になりました。終戦から50年が経過した平成7年、当時の八知小学校の児童が戦争について調べたことをきっかけに、その翌年、この痛まし

い出来事を後世に伝えようと「谷中の碑」が建立されました。「平和」と大きく書かれた石碑には、次のような文章が刻まれています。

「山青く水清らかな谷中 二十軒余の静かな暮らし 一九四五年七月二十四日 昼下がり谷中に爆弾が落とされた 葉草採りの小学生 川遊びの幼い児 奪われた尊い七つの命五十年の時を過ぎて いまここによみがえる八知小学校児童の 平和への願いとなつて 私達はこの出来事を忘れまい 人の世の未来のために」

小学生たちの思いをきっかけに建てられた「谷中の碑」は、平和を願いながら今日も静かにこの地を見守っています。

（「広報津」平成24年8月16日号）

